

RCV

Red Cross Volunteer

2025.02

No. **82**

February

Normal times

Emergency



テーマ

災害時と平時の活動のつながり

～ 普段の支え合いが、災害時の支援の充実に～

- 平時の活動があったからこそ
災害時の被災者支援につながりました！
- 災害時に備えて様々な活動に取り組んでいます！（活動例）

この情報誌は、RCV編集委員（ボランティア）の協力で作られているガー！
※委員の声は、編集後記に載っています。



災害時と平時の活動のつながり

～普段の支え合いが、災害時の支援の充実に～

阪神・淡路大震災から30年。震災時、最も人命を救ったのは人々の助け合いによる「互助」であったとされ、多くのボランティアが駆け付け、またそれまでボランティア経験がなかった人が参加したことなどから、平成7(1995)年は「ボランティア元年」と言われています。

近年の自然災害は、**気候変動**の影響で**頻発傾向**にあるとともに、線状降水帯など局地的に**大きな被害**をもたらしています。災害が頻発化するなかで、私たちにできることはどのようなかたちがあるのでしょうか。

本号では、「**災害時と平時の活動のつながり**」をテーマに、活動のヒントとなるような全国の赤十字奉仕団等ボランティア活動事例をご紹介します！



石川県

志賀町赤十字奉仕団

日本赤十字社で初！
仮設住宅での
グリーンカーテンづくり

詳しくは▶P5

鳥取県

若桜町赤十字奉仕団

令和5年台風7号災害で
災害ボランティアセンターの
運営支援を実施！

詳しくは▶P4・P5

石川県

北陸大学学生赤十字奉仕団 MY START

能登半島地震の避難所にて
リラクゼーション活動等を実施

詳しくは▶P4

佐賀県

佐賀県青年赤十字奉仕団

赤十字防災教育事業指導者の誕生

詳しくは▶P6

京都府

赤十字レスキューチェーン京都

救護班に帯同、能登半島地震の救護活動支援

詳しくは▶P4

熊本県

熊本県青年赤十字奉仕団

石本 瑛寛さん(写真右端)



日本のユース
代表として、
国際赤十字・
赤新月社の
国際会議に出席！

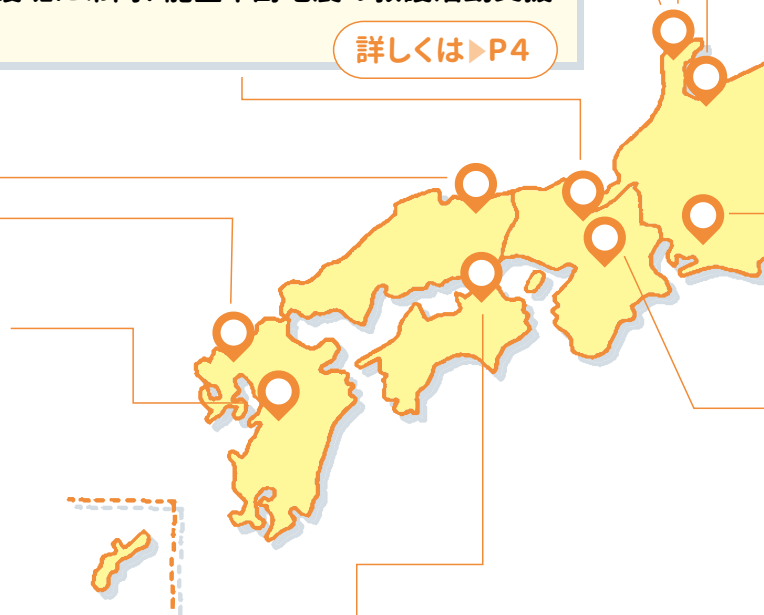
会議期間中、各国の赤十字ユースを含む参加者と防災減災についても情報交換しました。例えば、教育ツールの開発を行うユースには、日赤が作成した防災教材について説明しました。

香川県

直島町赤十字奉仕団

子どもからお年寄りまで！
防災活動を「知る」「体験する」

詳しくは▶P6



富山県

八尾町赤十字奉仕団 白菊赤十字奉仕団

支部・病院・血液センターとともに
災害救護訓練に参加

詳しくは▶P7

福島県

郡山市赤十字奉仕団

福島・スリランカ友好協会×奉仕団
防災研修会を実施

詳しくは▶P6

東京都

東京理科大学学生赤十字奉仕団 CoCoLo

車いすユーザーの方との交流会
防災活動など多岐にわたる
活動を実施！

詳しくは▶P7

大阪府×滋賀県

大阪府ビューティーケア赤十字奉仕団×
滋賀県赤十字奉仕団・
青年赤十字奉仕団「はなまる」



滋賀県赤十字奉仕団合同研修会で、大阪府ビューティーケア赤十字奉仕団が「ほっとケア」体験を行い、災害時に笑顔とぬくもりを届ける活動を学びました。

愛知県

ボランティア指導員 杉尾美恵子さん（ブラジル出身）

ポルトガル語で救急法講習を実施

詳しくは▶P7

北海道

札幌市音訳赤十字奉仕団 瀧本 孝乃さん



祝！

令和6年度第54回「朗読録音奉仕者感謝の集い」
北海道地区にて表彰されました！

赤十字奉仕団による視覚障がいがある方への活動は、録音図書の作成の他にも、行政の広報誌の点訳や拡大写本の作成などがあり、触って学べる防災教材を作成した奉仕団もあります。

神奈川県

平塚市赤十字奉仕団



令和6年11月17日に平塚市医師会と岡崎地区連合自治会と行った防災訓練の様子

平塚市との「災害時における応急救護活動の協力に関する協定」に基づいた地域の防災訓練にも積極的に参加しています。

私たちは、こんな時代だからこそ、地域でのボランティア活動がこれまで以上に重要だと考えています。

日頃から行政や他団体、地域の方々と**顔の見える関係**を構築し、災害時を意識した活動を行うことが、災害時の**円滑な支援活動**につながるからです。

各地の災害時の活動や災害時を見据えた日頃の活動に学び、皆さんの活動のさらなる活性化を目指し、赤十字の仲間と一緒に強い地域共生社会をつくっていきましょう！



次のページから具体的な
活動を紹介します！

平時の活動が 災害時の被災者支援

鳥取県

模擬訓練が功を奏し 災害時のスムーズな対応を実現

若桜町赤十字奉仕団



左：救急法受講時に心肺蘇生法の
手順を学んでいる様子
右：団体研修で穴栗防災センターを
見学する奉仕団

平
時

積極的な講演会や研修参加で災害時に備える

平時の活動としてはチャリティーバザーを催し、その収益を高齢者や福祉事業に寄付するほか、災害時に役立つ実技として心肺蘇生法や耐熱性ポリ袋による炊飯実習などを実施。1年を通して様々な活動を行っています。地域との連携を強化するため、広報誌に活動報告を掲載して防災意識の向上にも取り組み、また、他団体の講演会や災害時の人権学習講座にも積極的に参加するなどして災害時に備えています。

若桜町役場が主催する防災訓練には毎年参加しており、令和4年10月には支部職員とともに県社会福祉協議会が開催した2日間の災害ボランティアセンター運営者研修にも参加。災害ボランティアセンターの全体体制を把握するとともに、ロールプレイングの模擬実習を行うことにより、非常時に必要な知識や対応を体得することができていました。

京都府

能登半島地震で救護班に帯同、 救護班の後方支援と業務支援

赤十字レスキューチェーン京都

団名はいかなる時も互いに助け合い協力するという意味を込めた「ヒューマンチェーン」から名付けました。普段は、地域の防災訓練などのイベントに協力したり、救急法の普及を行ったりしています。一方、発災時には現地に派遣される救護班の後方支援や業務支援、被災地での生活支援、避難所の運営支援等を行っています。能登半島地震では救護班に帯同し、車両の運転や無線操作、救護班の生活物資の準備などに取り組みました。災害時の活動への理解が進むことで、人材育成や体制整備が本格化し、行政や他団体、救護班などの専門技能を持つ方々が最大限に力を発揮できるのではないかと考えています。

能登半島地震の活動では、まずは救護班の安全確保を第一に考え、慎重な判断をするよう心がけました。特に、発災直後の移動では広く情報収集を行いながら二次災害の予防を念頭に行動しました。



石川県

災害直後からリラ 家屋の清掃作業な

北陸大学

北陸大学の学生が所属し、イベントや子育て支援メッセ、献血キャンペーン等では、志賀町への物資搬送のお手伝いやリラクゼーション活動を行い、9月の豪の泥を拭き取る活動をしました。道路のお話から、災害は今もずっと続いている
今後、被災した方の状況を知るためにが被災時にどんな行動が必要か、避難所
さんだりしたいです。

活動先で感謝の言葉をいただくと、嬉しくなりますし自分にできることをもっと頑張ろうと思います。また、活動を通して年齢も職業も多様なボランティアの方々と話すことが楽しみのひとつです。



MY START
橋さん

あったからこそ つながりました！

災害時と平時の活動のつながり

災害時

左：災害ボランティアセンター
で受付業務に従事する団
員たち
右：佐治町で発生した豪雨災
害時の被災地の様子



災害支援の現場から平時訓練の重要性を再認識

令和5年8月に佐治町で発生した豪雨災害では、県支部からの要請を受け、鳥取市災害ボランティアセンターの受付業務に協力。5日間で延べ6名が参加しましたが、運営者研修での模擬実習が実際の業務で大いに役立ちました。センターの全体体制を把握できていたので効率的な流れ、必要な物品の洗い出しをはじめ受付体制の改善点も見出すことができました。また、現場の団員がメールで状況報告したことで、次の担当者が安心して臨めたのも実習があったからこそと思っています。平時からの連携や研修の重要性を改めて認識しました。

災害時には他団体の支援も多いことを知り得たので、今後は他団体との連携も強化しつつ、若い世代も巻き込んで誰もが安心して暮らせる町づくりを目指していければと考えています。

若桜町
赤十字奉仕団
伊井野さん



クゼーション活動や ど継続的に活動

学生赤十字奉仕団 MY START

マラソン大会などの救護ボランティア、を行っています。令和6年能登半島地震七尾市の避難所で足湯やハンドケア等の雨災害時は輪島市で泥上げ作業や家屋内亀裂や泥が残る自宅で生活している方と感じました。

地域の防災訓練に参加したり、自分たちで自分たちができることは何かなどを学



石川県

避難生活でできることを実践！ 避難所の健康的な生活や環境づくりに貢献

志賀町赤十字奉仕団

私たちは自主避難所で食事とおやつをつくり提供しました。またみんなで体操を行いながら43日間過ごし、歩行困難な方や高血圧の方の体力低下の防止に少し貢献できたと感じています。自分たちも被災者でありながらできることはないかと模索し、支部からのお声がけで6月に仮設住宅でグリーンカーテンづくりを実施しました。避難所生活は日数を過ごすと思いが落ち込み、イライラしやすくなるので、心穏やかに過ごせる方法を身につけておくことの大切さを感じました。各地区で日頃から話し合いを重ね、実際の災害を想定した訓練を何回も繰り返し行って、知識を蓄えていかなければならないと思っています。



普段、炊き出し講習や三角巾、車いすの使い方など災害時に役に立つ訓練を行い、今回実践できたことや、実践によって「ありがとう」と声をかけてもらったことが奉仕団活動のやりがいになっています。

志賀町赤十字奉仕団
山本さん



災害時に備えて 様々な活動に取り組んでいます！（活動例）

香川県

平時から防災情報を「見える化」して「自助」の意識を育む

直島町赤十字奉仕団



モデル奉仕団として自治体や教育委員会と協力して活動しています。活動に参加しているのは、子どもから高齢者まで幅広く、アルファミの調理や防災食の試食をはじめ、子どもには日赤クイズや防災体験、高齢者にはリラクゼーション研修など年代に応じ「知ること」「体験すること」を重視した学びの場を提供しています。また、直島町の広報誌を通じて日赤の取り組みや防災情報を「見える化」。平時から防災意識を高めてもらうよう努め、過去の災害経験から準備の大切さを学び、長期的視点で「自助」の意識を育む活動をしています。今後も次代につながるよう、気軽に参加できる仕組みづくりを考えていければと思っています。

佐賀県

「日本赤十字社防災教育事業指導者養成研修」を経て指導者が誕生

佐賀県青年赤十字奉仕団

佐賀県は災害の少ない県と言われていましたが、近年、大雨による水害などが発生しています。青年奉仕団として災害時に何かできることはないかと考え、佐賀県支部が行う防災ボランティアの訓練や研修会に参加しています。また、防災セミナーの支援や防災イベントへの参加をとおして、団員は防災・減災に高い関心を持つようになりました。今年度は、防災セミナーで教える立場である指導者になろうと昨年9月に佐賀県支部が開催した標記研修を受講しました。研修で得た学びを奉仕団内で共有し、今後、指導者として地域や青少年赤十字メンバーに防災・減災の知識を伝えていきたいです。若い世代の指導者がさらに増えていけばよいと思っています。



執行 亜由美さん

福島県

福島・スリランカ友好協会と防災研修会を開催

郡山市赤十字奉仕団



地域において非常時に外国出身の方とも協力できる体制づくりの取り組みとして、令和6年7月に福島・スリランカ友好協会と連携した初の防災研修会を開催し、スリランカからの留学生10名と奉仕団員あわせて約30名が参加しました。研修会では、奉仕団員が耐熱性ポリ袋を使った米の炊き方を説明し、留学生はスパイスカレーの調理法とおいしい紅茶の淹れ方を紹介し、互いの文化を学びました。留学生たちは、異国での防災対策への関心が高く、熱心に学ぶ姿が印象的でした。

今後も福島・スリランカ友好協会や地域在住外国人との交流を深め、災害時に備えた「すべての人々のための」多文化共生の体制づくりを進めていきます。



東京都

車いすユーザーの方との交流事業

東京理科大学学生赤十字奉仕団CoCoLo



山口広隆さん・柿沼慶亮さん

主にからだやところに障がいのある方と交流する社会福祉活動や、都内の他の奉仕団と一緒に海岸清掃などを行っています。高校生の車いすユーザーの方との交流事業を企画した際、参加者の方に「楽しかった」と言ってもらえてとても達成感がありました。どの活動を企画・準備する際も参加者に継続的に参加してもらえるよう、「楽しかった」「来てよかった」と思って帰ってもらえるよう心掛けています。また、車いすの介助方法など普段の活動で身に付けた経験を生かし、防災かるたや防災に関するレクリエーションなども行っています。活動を通して、人に話しかける勇氣や、リーダーとしての責任感を養うことができたと思います。

愛知県

ブラジル人生徒を対象にポルトガル語での救急法講習を実施

外国にルーツをもつボランティア指導員 杉尾美恵子さん

私は赤十字の講習を受け、「この知識を多くの人に伝えたい」と思い、指導員資格を取得しました。ブラジル出身で全国でもまれな「外国にルーツをもつ赤十字ボランティア指導員」として講習を実施しています。2024年5月にはブラジル人生徒を対象にポルトガル語で救急法講習を実施しましたが、「119番通報」という難しい日本語を生徒たちが「いち、いち、きゅうにでんわ」と言えるようになったことだけでも大きな一歩だと感じました。災害が少ない国から来た方は、災害時の対応に慣れないもの。防災訓練への参加も促していきたいです。愛知県支部のやさしい日本語を使った講習テキストを使うなど、誰でも防災力を高められるようサポートしたいと思っています。



杉尾美恵子さん

富山県

支部・施設合同災害救護訓練に毎年参加し連携

八尾町赤十字奉仕団・白菊赤十字奉仕団



富山県内の地域赤十字奉仕団は、県内赤十字各施設（支部・病院・血液センター）が一体となって災害に備える合同災害救護訓練に毎年参加しています。令和6年度は、20名ほどが炊き出しを実施。参加する奉仕団は、県内を4つに分けたブロックで輪番となっており、毎年10団から2名ずつが参加しています。能登半島地震後の今回の訓練では、支部・施設や地区区分との日頃からの連携の重要性を再確認しました。この活動は、『富山県赤十字奉仕団6つの統一活動』の一つであり、同じく統一活動の在宅ひとり暮らし高齢者訪問等とともに学校での防災教育も継続していく予定です。赤十字の活動に誇りをもって楽しく活動していきたいですね。

RCV
Topics▶大阪・関西万博に「国際赤十字・赤新月運動館」を
出展します。▶ テーマは「人間を救うのは、人間だ。
The Power of Humanity」

令和7年4月13日から10月13日までの184日間
にわたり、大阪・夢洲を会場に大阪・関西万博が開催
されます。「いのち輝く未来社会のデザイン」を
テーマに、160を超える国・地域・国際機関等がパ
ビリオンを出展します。

1863年に誕生した国際赤十字は、赤十字運動の普
及のため1867年に開催されたパリ万博にパビリオン
を出展。以降の万博でも傷病者の救護活動やジュ
ネーヴ条約の紹介を続け、長らく万博に関わってき
ました。日本赤十字社の創設者・佐野常民も1867年
と1873年の万博会場で赤十字活動を目にしており、
このことがきっかけで帰国後に日本赤十字社の創設
に動きました。

日本赤十字社「大阪・関西万博」ウェブサイト
<https://expo2025.jrc.or.jp/>



今回、赤十字は「国際赤十字・赤新月運動館」と
して国連などの国際機関と同じ区画にパビリオンを
出展します。テーマは「人間を救うのは、人間だ。
The Power of Humanity」。国内外の人道危機にお
ける人間の苦しみと、そこから立ち上がる人々の
ヒューマンストーリーをドーム型シアターに投影さ
れる映像と音楽で演出します。パビリオン体験を
通じ、一人でも多くの方が誰かのために一歩を踏み
出すきっかけを得ていただくことを願っています。



ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。
Towards a brighter future for all

開催期間 2025年4月13日(日)～10月13日(月) 会場 大阪 夢洲(ゆめしま)
Period Sunday, 13 April to Monday, 13 October 2025 Venue Yumeshima Island, Osaka City

©Expo2025

読者のみなさんの声

大募集!

RCVをよりよい情報誌にするために、
皆さまのご意見をぜひお聞かせください!

- 1 今号の特集へのご意見・ご感想
- 2 こんな特集が見たい!
「こんな活動がしたい!どこかでしていないかな?」等、知りたい
活動はありませんか?
- 3 活動を全国に伝えたい!
掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。
- 4 RCVをメール配信しています!配信をご希望の方
は送信先のメールアドレスをご記載ください。

上記①～④をご記入のうえ、メールにて
rc-volunteer@jrc.or.jp までお送りください。



二次元コードからも
ご回答いただけます

PRESENT

抽選で
30名様に

ハートラちゃん
クリアファイル
をプレゼント!!

令和7年7月31日(木)必着

郵送の
場合は

〒105-8521
東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 事務局 パートナーシップ推進部
ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課 宛

RCV バックナンバー
はこちらから➡

<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/volunteer/document/>



全国のようなボランティア活動満載!!
活動のヒントを探しませんか?

🔍 赤十字RCV

Editor's Note

編集後記

今号も赤十字ボランティアの皆さまと編集しました!
編集委員の声を掲載いたします

RCVの編集を通じ、赤十字活動やその意義を深く
理解し、多くの方が誰かのために活動している姿に
感銘を受けました。貴重な体験をすることができ、
サポートしてくださった方に感謝しています。

(小澤こころ)

想像以上に多種多様な奉仕団が存在し、活動が精
力的に行われていることを実感しました。本誌の
情報を少しでも皆様のボランティア活動に活か
していただけると大変嬉しく思います。(佐藤聡太郎)

今回、石川県の記事の編集をさせていただきました。
能登半島地震や豪雨災害時に行った活動や、
そこから得たこと感じたこと等普段なかなか聞け
ない内容で、貴重な編集経験となりました。ありが
とうございました。(椎名優馬)